



上／舞台部門市長賞の弥栄小いやさか太鼓。気迫いっぱいのはちさばきで勇壮に演じました
左／感性豊かな作品が光った展示部門

豊かな情緒と感性を磨く

NPO法人一関文化会議所が主催する第1回“夢・未来”子ども文化祭は1月24、25の両日、一関文化センターで催され、中学生以下の子もたちが絵画・書道などの展示部門や伝統芸能、合唱、舞踊などの舞台部門で、日ごろの芸術文化活動の成果を発表しました。

書道80点、絵画94点、発明クラブ展示品21点が出展された展示部門。書道では力強く「科学」を書き上げた千葉衣央さん(山目中1年)が、絵画では「牛のおせわ」を楽しく描いた及川恵さん(猿沢小2年)がそれぞれ市長賞に輝きました。

25日、14団体が出演した舞台部門は、「田村屋台囃子」などを勇壮に演奏した関が丘太鼓でスタート。キッズコーラスたんぽぽはそれぞれの出演者の独唱も交えながら、「ドレミのうた」など6曲を披露し、歌う楽しさを体全体で表現しました。市長賞には、息の合った力強い太鼓の音色を響かせた弥栄小学校の「いやさか太鼓」が選ばれました。

ほっとNEWS

こんなこと
ありました



「住民が地域を思う気持ちが大切」と力説する櫻井准教授(右)

住民主体の地域づくりを

東山町田河津地区の束稲自治会(前田眞会長、53世帯)、丸木自治会(佐々木欽一会長、39世帯)が主催する協働のまちづくり集落講演会は2月1日、束稲生活改善センターで催され、約30人が参加しました。

櫻井常矢高崎経済大学地域政策学部准教授が「これからの地域づくりに求められるもの」と題し講演。自身がかかわった協働の取り組み事例を紹介しながら、住民主体の地域づくりについてわかりやすく語り掛けました。講演後の質疑応答では、地域の問題について活発な意見が交わされました。



はだして元気に相撲を取る園児たち

ハッケヨイ、ノコッタ!

門崎保育園の相撲大会は1月29日、同園で行われました。冬場の体力作りにと行われているもので、この日は「門崎場所千秋楽」と銘打って、今シーズン最後の取り組みが行われました。園児たちは自分で考えたしこ名「りぼんみなみやま」「はくおうだいきやま」などのゼッケンを付け、東西に分かれ対戦。マットに作られた土俵の前で一礼すると、行司の「ハッケヨイ、ノコッタ」の掛け声で、勢いよく体当たりしていました。応援に駆けつけた家族は、はだして元気に飛び回る豆力士に拍手と声援を送っていました。